



同窓会報

第41号

発行 宮城県仙台第二高等学校
 同窓会事務局
 仙台市青葉区川内藏橋通一
 番二二一五六五一(直通)
 印刷 創文印刷出版株式会社
 仙台市青葉区春日町八番二四号

巻頭言

会長 西澤 潤一 (中44回)



日本が師と仰ぎ、第二次世界大戦後の復興を実現してきた、その米国が、住宅金融に過重投資した結果、金融不安に陥った。いろいろと対応を追加しているが、なかなか効果が現われず、憂慮されている。当然後を追って来た日本にも影響するところが大きいと思われるが、経営経営の向上も見えないのに恐るべき大量なビル建築のブームを不可思議に思っ見て来た我々に大きな不安感を懐かせるのは当然であろう。

何れにせよ、我々が六十年間受けて来た教育は富裕国米国のそれであった。若き溢れる元気さは大いに結構であるが、余りにも過去の経験を生かさなくなるのは欠点であろう。このような長所短所も六十年蓄積されると当然の影響を生むことになる。

その一つとして、歴史教育や語学教育が日本のものに限って著しく軽視されて来たことである。その効果がいろいろの面で現われて、長い議論の末に改革しようということになったと思ったら、山崎正和中央教育審議会長から、真向から反対の発言があり、更に驚いたことには伊吹文壇部科学大臣からも重ねて発言があった。不思議なことどころから議論は行われなかったが、その時思い出したのは吉田茂総理の「曲学阿世論」であった。当時は何のことか釈然としないうちに世人の口に上らなくなってしまうが、決して消滅してしまっただけではなく、その後も表立った発言

ではないものの大きな勢力を持ち続けていることが分っていた。それが長い底無し沼のような押しかた一寸安堵した時に最高責任者であるところの文部科学大臣から、このような発言が出ると思わなかった。

日独年に日本を訪問されたドイツの工科大学長が、「教育は文化の伝承」と力強く講演を終えられたのが忘れられないのだが、今後の地球上で売れるものは、優れた商品でなければならぬ。理工系と雖も、その製品には産出国の特徴が生きている。今後使い捨て拒否の時代がやって来て、人間は一つ一つの製品を大切に長く使うことを志すようになる。こうなれば、製品にはお国柄を示す模様をつけて利用者をなごませることになる。刃物の鍛造紋なども意識してその美を競うこととなる。言語がその人達の文化を守る中心的な役割を果たしていることは多くの実証研究が行われている。何を見てもどここの国へ行っても、全く同じものしか無くなってしまう社会

では、想像するだけでも心寒い思いがする。各国民がいろいろの面の特徴を出し、互いに補い合って共同生活が行えるようにすべきではないだろうか。東洋の教育は人を育てる。歴史こそ、我々の経験集である。従って歴史を通覧すれば、我が民族の経験集である。同じ間違いを繰り返さないためにも、我々は歴史を知らなければならぬ。

基礎教育の仕上げともいうべき高校生活の段階に於いて、国史及び国語教育は極めて重要であることは言を俟たない。しかも後からやればよいという大変な認識をも早く切り捨てなければならぬ。過去六十年の教育改革の過程に於いても、逆行して実は後退したことが寡くない。私が愛する言葉の中に、立原正秋氏の「愛の底には厳しさがなくてはならない。云々」というのがある。実行してみても正当性はよく分るが、余りにも単純に見てしまう今日の教育には、このような深い教育のあり方は分っていないのを感じることも屢々である。教育とは只一度である。予想も出来ない時機に突然訪れる心のふれ合う時機を逸せず、適確に捉えて教育の好機を活用することなくしては、人類の進歩は極めて寡ないものである。また先生の方々にほぼ一方的に好機を見逃さない天

才的な能力が要求されている。小学校時代に同級だった一寸素直に物事を受け取ることに失敗した友達が居た。特殊学校から送り出され一般小学校に戻され同級生になったのだが、今でも思い出して心の糧として素晴らしい先生だったが一寸からかうという悪い性癖をお持ちで、この同級生にも大分抑えておられたのについつい出てしまっ怒らせてしまった。憤然と去っていく友と、悲しいお顔を小学校六年生だった私にボヤかれたその先生のことには未だに心痛む悲しみである。正に一期一会というのは教育にとっても大切な言葉ではないか。

私の研究室の卒業生で経済状態の良かった時と悪かった時を比較してみると、ひが目か、悪かった時、特に正に良くなりかけた頃の卒業生が一番見事にその天才を育てているように見える。決して豊かで実験機材などが豊富に手に入った時代ではないことが思い出される。教育という複雑科学は決して単純な関係式では結ばれない。金さえ出せばよいのだからなどという単純比例関係など誤りの雄たるもので、寧ろ教育を仕難くしてしまう。我が母校には、幸いにして優れたノウハウが沢山にあり、我々は大変期待している。大英帝国は千年近く世界に君臨した。

支部総会 同期会 開催報告

岩手県在住 仙台 二高(中)・二高(中) 合同懇親会

副会長 鈴木 恒男 (高5回)

第16回を重ねる標記の会が平成二十年九月六日(土)夕刻盛岡市エスポールにて開催された。これまで知己を深めた両校の恒例のメンバーが笑顔で参集し、また新顔も期待を込めやや緊張の面もちで出席された。

御来賓として今年の四月から二高校長となられた庄司恒一先生、二高同窓会副会長山下健二氏。一高側から同窓会会長浅見紀夫氏、同窓会事務局長小崎茂氏が仙台から遠路わざわざご来盛下され盛大な会になったことをまずもって感謝申し上げる



第16回仙台一中・高・二中二高懇親会

次第です。

出席者は仙台二高側十一名一高側二十名でした。

まず二高側氏家和国北陵会会長、一高側八重樫雄一会長からご挨拶のあとご来賓の庄司校長から二高の昨今の諸情勢をお聞きした。その中でイギリスのイートン高との交流について二十一名を招き、サッカー試合をしたこと、恒例の一、二高野球定期戦では三年ぶりに勝ったこと、夏の甲子園予選では準決勝まで進出、そして化学オリンピックでは

銅メダルを受賞した事など話された。庄司校長先生は仙台一高にも十三年間ご勤務されておりこの日の会場で知っている方々も居られたようだった。

山下同窓会副会長からは今度新しく就任されたこと、西澤潤一会長を支えて頑張ると話され、乾杯の労もとって頂いた。一高の浅見同窓会長からは会長職を今年から引き継いだことで、役員がすくすく若返りたとし、二高では既に始まっている男女共学が平成二十二年から開始となるので、仙台二高の対応を勉強していること、また反対論者が多いこと、平成二十二年度からは仙台を二つに割っている学区制もなくなるので、教育面での地図も変わってくるのだろう。いろいろと県教育委員会との会も開催しているなどと話された。

その後出席者から自己紹介を兼ねて近況を述べていたのだが、なにしろ中43回、中50回卒ともなると陸軍士官学校卒、海軍の大先輩も含まれ、話がすくすく盛り上がったが、時間の関係で話足りない方々も多かった。

高3回創成会

高橋 正道 (高3回)



一九五一年卒業の高3回同期会は恩師松崎先生命名の創成会と称し、年一回定期開催を行っている。今年も母校の桜も満開の四月十八日、仙台ホテルで行われた。首都圏から四名、福島、山形、岩手から各一名、仙台十六名の二十三名が出席、欠席者の近況報告の葉書は六十六名で約百名の音信が確認された。喜寿を迎え、年齢相応の物故者が増えつつあるのは誠に寂しい限りであるが、参加者は元氣者揃いで二中・二高の六年間の青春の思い出は尽きず語り合いたい来年の再会を期して散会した。

昭26卒首都圏同期会

森 郷巳 (高3回)

今年も首都圏同期会は、七月二十三日(水)正午からJR新橋駅近くの新橋亭新館で開催。仙台から飯塚久夫、木村正武、高橋正道、渡辺剛の四君の参加もあって二十八名集まった。首都圏の在住者は約七十五名だから、我々の世代としては、まずまずの参加率だと思ふ。欠席の理由は、病氣療養中、体調不良、家族の介護などが多くなっている。ほぼ一年ぶりの同期会。和気あいあい旧交を暖めることができた。

は高橋武夫君から「わが写真ライフの歩み」「写真の開発の歴史」「最近の写真業と写真の変化」について、それぞれ興味深い話題を本当に要領よく話してもらった。これで、両君の人生と生きてきた世界を改めて知った感じだった。

なお、当日、近藤正太郎君

の近著「そのときどきの想い」合田周平君の近著「環境力」(PHP研究所)の紹介があった。



武藤順九氏(高20回) 個展

「風の環」シリーズで世界にマを拠点に活躍している彫刻家、武藤順九氏の個展が五年ぶりに十月十日から十五日まで出身地仙台・藤崎で開催され、会場には武藤氏の力作が多数展示され、独特の芸術性に魅せられた来場者で賑わっ

た。武藤氏の平和への願いと鎮魂を祈る「風の環」シリーズはローマ法王公邸内



に史上初の抽象彫刻として永久設置されたのははじめ、〇六年には世界遺産のインドマハボデー寺院、〇八年九月には、アメリカ先住民の聖地、ワイオミング州デビルズタワーの麓にブッシュ大統領承認のもと「風の環」聖なる煙」が永久設置されるなど世界的なアーティストとして注目されている。今後も国際的なプロジェクトでの活躍が期待される。(高3回 高橋 正道)

「北社会ゴルフ」三十周年と米寿祝

青山 史朗 (中40回)

昭和五十三年(一九七八)スタートした北社会ゴルフの三十周年を記念する九月例会が大宮GCで開催された。当日は残暑のなか樹間をわたる風は秋の気配を感じさせる絶好のゴルフ日和で、随所に活

気あふれるプレイが見られた。成績発表後、会場を川越の鈴木壮夫氏(高11回)経営のそば店百丈に移動し、開催中の山本敏晴氏(高36回)の写真展「沈み行く楽園ツバル」を鑑賞、山川民夫・青山史朗両名の米寿を祝う会が開催されたが、ゴルフ不参加の同窓



河岸敏郎先生に感謝する会を終えて

平野 幹雄 (高42回)

去る八月十六日(土)にDucea 仙台駅前店にて河岸敏郎先生に感謝する会が盛大に開かれました。仙台二高剣道部顧問として長きに亘りご指導くださった河岸先生が、本年三月に宮城県亘理高等学校の校長を最後に定年退職されたことをうけ、二高剣道部〇

B会一同感謝の気持ちを表したいと企画されたわけです。当日は、同じく元顧問の大野剛先生(現宮城県泉高等学校教頭)や現顧問の南雲芳則先生にもご臨席をいただき、海外より駆けつけてくれた卒業生を含め五十名以上の参加がありました。卒業年別のスピーチでは、これまで明らかにされなかった河岸先生との秘話が多

をお聞かせいただきました。なお、当日の日中には二高剣道場にて現役生との稽古会も開催されこちらも盛会のうちに終えることができました。OB会の事務局としましては、今後は財政的な援助を含めてより積極的に現役部員への援助を行っていく所存でおります。現役部員への寄付を含めて二高剣道部OB会の活動に興味関心のあるOB諸兄がございましたら、是非一度左記までご連絡を頂戴できればと存じます。よろしくお願い申し上げます。

会員短信

「二期一会」二高先輩との出会いと別れ」
高26回 佐藤 健二(旧姓・貝山)

仙台二高の同窓生ということを確認できただけで、たとえ初対面であっても、互いの距離を急速に縮められることを、最近、携わった仕事を通じて、身を以て感じた。加えて、説明したい。

宮城教育大の剣道部を指導することになったことなどの近況
中村恒郎氏(高13回)へ連絡。
tnakamura2205@y3.dion.ne.jp

仙台二高剣道部OB会事務局
krokendo@googlegroups.com

団塊世代の大量定年などに伴い、企業の技術力衰退を懸念する中小企業庁が、高専の教育資源を中小企業の技術者育成に活用しようと、平成十八年度から、「高専等を活用した中小企業人材育成事業」という名称の公募事業を行った。宮城県内では、当時、私が出向していた(財)みやぎ産業振興機構が事業指定を受け、地元の宮城・仙台電波の両高専と連携し、プロジェクト管理法人を務め、初年度は中小企業の「若手技術者」、翌年度は「技術者リーダー」をそれぞれ対象に実施した。

その当時、上司であった産学連携推進部長の二高先輩・吉田徹氏(高15回)からは、本事業の国への申請前から終了まで、ほぼ全てに亘り、温かいご指導を頂いた。同氏は宮城高専の非常勤講師も務めるなど、高専に対する並々ならぬ熱い思いを持っておられた。なお、本事業では、受講生に毎回の講義終了毎の報告書提出が課せられており、私はその期限管理と講師への橋渡し役を担った。この講義には、もう一人の二高先輩・庄司彰氏(高13回)に、コーディネーターとして、殆ど毎回一緒に、ご参加いただいた。庄司氏は、各講義で、講師と共に大きな役割を果たされ、ご自身の宮城高専名誉教授・特命教授というお立場の面目躍如であった。受講生に接するにあたり、同氏からは幾度となく貴重なアドバイスを頂戴し、大変お世話になった。

冒頭、二高の同窓生ということでの、「互いの距離の接近」ということを述べたが、恩師や校風などの思い出話の最中、ふと気づいたことがある。それは、必ず、「定期戦」の応援練習の話が出たことで、思い返せば、入学早々、連日、厳しい練習が続いたものだった。応援歌や人文字の練習など、今となっては懐かしい思い出である。お陰様で、応援歌の歌詞が口をついて出てくる程、記憶に残り、今でも毎年の定期戦がとも楽しんでみとなっている。定期戦が、これほどまでに二高・同窓生にとり、大きな存在であることを痛感した。

次に「同じ対象への共通の思い入れ」についても、若干ふれなければなるまい。それには、今般の事業・相手先の高専についての紹介が必要だ。高専は工業系の高度技術者養成を目指して五年制の教育を行っているっており、その上の二年生の専攻科を終了すると大学卒と同じ資格が得られる。卒業生は実践的な高度技術者として製造業を中心に活躍しており、企業からも高い評価を受けている。学生の教育だけでなく、「地域に貢献し企業と共に発展していくこと」も高専の大切な使命である。今回の事業では、宮城高専、仙台電波高専の実力が十二分に発揮されたのだった。また、吉田・庄司の両先輩は、高専の将来を真剣に考えておられ、私も実力派の高等教育機関で

ある高専に、より強い関心を抱くようになった。最後に筆を置くにあたっての近況報告であるが、今年の七月の人事異動で、両氏共に仕事をした出向先を後にし、新たな職場に移ったという事情があるにせよ、私は「一期一会」を大切にしていきたいと切実に思っている。これまでの異動で、幾つもの「出会い」と「別れ」を繰り返してきたが、取り分け、この度の二高の先輩との別れは特別である。「仙台二高、万歳!!」、こう叫ばずにはいられない心境となった次第である。

私が、関り交流した方々で、八十年法要に参列の高橋良勝氏の訃報があった。

同氏は、奇しくも渡辺氏との慰霊登山の折、発病を自覚されたが、薬石効なく鬼籍の人となってしまう。月田氏が同氏の慰霊もかね、碑前に回向の品を手向け冥福を祈った。蔵王寺に立ち寄ったおり「カナガラ仏」のオバアチャンも九十五歳で昨年亡くなったと聞いた。供養塔のお守りや状態について情報提供など、生前はいろいろお世話になったお方である。

遭難碑慰霊登山

高6回 清野 英一

数年前の東京北社会の講演で感動を呼んだ第三代校長渡辺文敏氏遺児宏氏による蔵王遭難碑慰霊登山に対する関心が、今も途切れることなく寄せられ、宏氏と同窓会有志の合同慰霊登山にも支持や激励があり、同氏の意志を戴き二年前から月田文和氏と渡辺氏が登山した十月十六日に行うことにした三年目の慰霊登山を今年も行った。

創立百年時、遭難八十年法要行事の実行委員長を務めて以来、慰霊関係行事には欠かさず参加している大友一郎君が、家族の介護問題を抱えながらも来てくれ、当時の法要行事に多大なご厚志を戴いた川崎町の山家先生の仄間消息を伝えてくれた。

歴史と伝統の中でご遺族始め幾多の方々がそれぞれの想いでタスキ・リレーをしてド

ラムを形成したが、その末端を担う意義を深く受け止め、晴天の下、今年は無事慰霊碑前で鎮魂の合掌をすることが出来たことを、ご支援戴く皆様にお伝えいたします。

私が、関り交流した方々で、八十年法要に参列の高橋良勝氏の訃報があった。

同氏は、奇しくも渡辺氏との慰霊登山の折、発病を自覚されたが、薬石効なく鬼籍の人となってしまう。月田氏が同氏の慰霊もかね、碑前に回向の品を手向け冥福を祈った。蔵王寺に立ち寄ったおり「カナガラ仏」のオバアチャンも九十五歳で昨年亡くなったと聞いた。供養塔のお守りや状態について情報提供など、生前はいろいろお世話になったお方である。

● 最近「古事記」や「平家物語」を読み返しており、諸行無常の響きをガチンコ感じさせられた今回の慰霊登山ではありました。

さは然りながら、本来能天気のサンブル人間故、道中は折からの好天下、さんざめきつつ、賑やかに道中致したのであります。

何時見ても絶景のお金を探

勝しつつ、冷たい風に冬の到来を肌身で予感しながら、熊野の登りも軽やかに十一時慰霊碑到着「いいところあと十年すか？」



強く感ずる。碑が語る無言の教訓か……触発されたか、大友一郎「じゃあ俺、笹谷まで行って神室を登ってミツカラ」

とこれまた刈田駐車場から一目散にドロンと消える。

よって以降は小生「みちのく一人旅」川崎で碁石に左折するのを忘れ村田町に出てしまったと余談つきの慰霊登山でありました。

自宅にくつろいだ午後五時半「今ヘトヘトで家に着いた

「そんなこと言うなデバ！」で香華を手向け合掌。とやあらん、かくやあらんのうちしもや、ナント、山形在住の月田先輩「俺、ここから家まで歩いて行くから、んじゃ、またね、元気で、バイバイ」と熊野岳から地蔵岳の稜線に消えていった。昭和八年生れ「アキレタ・ボーイズ」七十五歳の秋。山男って、山に来ると何時まで経ってもノッツオ根性直りません。

この人、烈風の中、絶望的に彷徨し荒涼たる山頂に師弟相抱き倒れた人々の事蹟を出来るだけ自分で辿りたいとの意志があるように思える。

当時、第一次大戦後、富国強兵思想の世相の中で、軍事教練の要素が濃い行事であったとは、渡辺氏を我々に結びつけたジャーナリスト千葉英之氏の記述にあるが、世相混迷の昨今、大人の論理に子供たちを巻き込むようなことは避けねばならないとの思いを

後輩女性を歓迎

高17回 渡辺 正彦

二高生の女性諸君、栄えある仙台第二高等学校へようこそ。一卒業生として心から歓迎します。

共学化については残念ながら反対の声もあったことは勿論ご存知でしょう。そんなことを気にする方々ではないと思えますが、堂々と胸を張り、伝統に新たな伝統を積み重ねて頂くことを期待いたします。

あなた方が社会に出て、やがて次の世代に引き継ぐ頃には、男女共学が話題になった時代のあったことすら忘れ去

から。」と月田氏から電話、「困った人だオンね」といえば「かみさんにもそう言われた」と笑う。

追伸がてら……往路、時間があつたので、大黒天で車を降り月田氏と、ちょっとお沢の方に下って見たのですが、風雨による崩落、侵食が進行し、往年跋涉した当時より荒涼の気配が深まったように思っただのが、共通感想です。

……偏に風の前の塵に同じか、祇園精舎の鐘ゴーン！

られているでしょう。もちろん体力、性格、あらゆる面で個人差はあり、それは尊重されなければなりません。生殖(リアプロダクツ)に係る負担が女性に大きいことは、その上で配慮されるものでしょう。

最後に男子も含めた生徒諸君、性と言うものが男女しかないと単純な問題でないことは、少し勉強してもらえば判ることです。男女の別なく切磋琢磨し、友情を深め、個性の豊かさを尊重し、楽しい高校生活を送って下さい。

高22回 原研二君

(東北大学大学院 文学研究科教授) への追悼文

高22回 吉田 信彌

(東北学院大学教養学部教授・仙台二高合気道部コーチ)

独文学者原研二君のすばらしい活躍を改めて知ったのは、高校二十二回生の「ゲタの会」からの河北新報の記事(平成十九年一月六日)を紹介するメールからでした。新聞を見逃した私は、その記事を見bでみつけ、歴史家ブルクハルトの全集を編纂する世界的な仕事に原君が取り組んでいることを知りました。すぐ祝意のメールを送ると、彼からの返信には、彼が深刻な病を患っていることが告げられていました。昭和四十五年に東北大学文学部に二高から合格したのは彼と私の二人でした。一年生のときは毎日のように話をしていました。彼は高校のときも秀才でしたが、大学に入ってから、ますます彼の成績は優秀になっていきました。学部の卒業時も大学院修士の修了時も文学部の総代でした。両方とも、というのは珍しいケースだそうです。その秀でた外国語能力が培われるのは二高時代です。田島信義先生の教科書丸暗記法を忠実に実行し、それが彼の感性を開花させたようです。原君も「田島先生のおかげ」とご子息にも語っていたようです。大学のドイツ語の勉強も同じ丸暗記法です。一年生の夏休みに文法を全部暗記したとのこと。これは、西洋史の西村貞二教授がポルト部で遊びほうけたが夏休みに文法を全部暗記したとの話に啓発されたものと思えますが、田島式が有効だとの確信があればこそその勉強です。それが語学の習得方法だと言っています。原君は二高生らしいいまじめさが取り柄と思われがちです。しかし、まじめに暗記をすれば語学の達人になれるという安易なものでないところが文学の厳しさです。彼は言うのです。英語でもドイツ語でも、読むのは「クイズを解

くようで楽しい」と。この楽しい感覚が私にはわからない。言葉を道具としてしか理解できなかった当時の私には、やはり、この文学の天才は違う、と思わせた忘れられない一言です。それから歳月を経て、ブルクハルトの「息遣いを何度も感じるようになった。喜びだった」と語る記事を読み、そこまで達するのかと彼の学問の深さを垣間見た思いでした。今年の年賀状には、ブルクハルトの論文を書いたとありました。これには跳びあがりんばかりに喜び、大学入試のとき原君は途中から具合が悪くなり、生物も数学も

白紙だったのに合格したのだから、昔から病には勝つてきたのだ、と激励の手紙をだしたのですが、しかし、一年八ヶ月の闘病生活は想像以上に過酷だったようです。調子のよい期間に書き上げたというようなものではなく、強い克己の精神で書き抜いたことが、兄（高校十九回生）であり、最良の理解者である原英一東北大学大学院教授（英文学）から通夜の席で披露されました。もっと仕事をさせてあげたかった。それが皆の思いでした。せめて古今の文豪と語りあう冥福を、と涙をこらえて願うのです。

仙台二高・イトトンカレッジ 国際交流プログラムを終えて

高40回 吉田 明弘

「サッカーは世界の共通言語」とさえ言われている昨今、このような機会を頂いたことに同窓会の皆様方、プログラム成功に関わった方々に大変感謝申し上げます。

サッカーを通しての交流は、競技者同士が共に会話がないところからはじまり、試合後にはお互いのプレーに共感し、

称えあうというすばらしいものでした。試合は母国の威信をかけて戦っていたように思われ、エキサイトする場面もあり、見ごたえのある試合となりました。結果は1対2の敗戦となりましたが、国際化が進む世の中で、多くの友を作り、英国の文化・言語に触れることができました。友好

的な状況のもと、人との出会い、互いの理解が深められたことは、二高生にとって長期にわたる利益となったことと確信します。

今回は在校生全員の直接的な交流とまではいきませんが、この交流プログラムを糧にますますのグローバルな発展につながり、二高生にとって有意義なものとなることを期待し支援していきたいと思えます。

仙台第二高等学校共学化問題と 住民監査と住民訴訟（その一）

高2回 朝倉 亮

はじめに

平成十五年七月十七日、宮城県教育委員会は仙台第二高等学校を平成十八年度から男女共学にすると発表した。その公表はテレビ・新聞に報道され、同窓生及び市民に大きな衝撃を与えた。多数の同窓生にとって文字どおり寝耳に水の発表であった。以後反対運動は日増しに拡がっていった。住民訴訟に至るまでの経過等については以下に述べるとおりである。しかしこの間、母校仙台二高には平成十九年



平成二十年八月宮城スタジアム

四月には共学第一期生が入学し、明二十一年度からは全学年が共学制となる。その意味で同窓会にとっては一つの転機を迎えようとしている。今後母校仙台二高の教育について語る以上、共学制の現実を回避することはできない。それなりに整理が必要と考える。このような時に、平成十六年の同窓会総会以降大集会および街頭運動を組織した一人として、また（仮称）「仙台二高共学化調整会議」の討議に参加した一人として、さらに

は住民監査・住民訴訟を提起した原告の一人として、その経過を報告することは当方の義務と考える。教育問題は誰にとっても生涯の課題である。今後宮城県公立高校教育を考える一石として活用いただければ幸いである。

なお、現三年生は、別学制最後の二高生として来年春に卒業する。教育行政の混乱を乗り越え、健闘されんことを心から祈りたい。後輩達にもよき伝統を伝えてくれることを願いたい。

以下標題について同窓生に左記によって報告したい。

1 一律共学反対運動
住民訴訟を提訴した以上反対運動について原告の認識した事実を語らねばならない。

(1) 平成十五年七月十七日の発表後、同窓会西澤会長は浅野知事に面会し説明を求めた。浅野知事の説明は「公立の教育機関だから男女の別なく平等に受験の機会を与えたい」というものであった。母校に対する卒業生の愛着とか情緒を無視した発想であった。そのような人間性を否定する無機能的な発想をもって仙台二高同窓生を説得することはできない。

同窓生の怒りを増幅させるだけであった。平成十五年十月三十一日、県教育委員会は若生次長以下が北陵館に来館して同窓生に説明を試みたが、

説明会は紛糾し進行不能の状況に陥った。その後、同窓生有志によって結成された共学化問題研究会は、共学化に関する内外の資料を収集・整理・分析し、その結果を「宮城県

仙台第二高等学校共学化に関する問題」として中間報告に纏めた。同窓会総会はそれを基に共学化の凍結を決議した。同窓会は、翌平成十六年七月、

浅野知事と白石教育長に対し仙台二高共学化の凍結及び納得性のある教育施策を求める要望書を提出した。

(2) 平成十六年八月、その要望書に対する県知事・教育長の回答書が到着した。それによれば、仙台二高共学化の理由は次のようなものであった。

①県立高校は県民の負担で運営されている。②平成六年頃から「家庭科」が男女とも必修となっており、学習指導上の差異はなくなった。③仙台二高においては、以前から「21世紀ビジョン作成委員会」が仙台二高の在り方を検討し

ていたが、平成十三年三月の県教育委員会による「県立高校将来構想」発表後は共学化を盛り込んだ「中期総合ビジョン」を作成した。等であった。

率直に言って意味不明である。すなわち、①には論理の飛躍がある。②については平成十六年当時においてさえ十年前の話である。その十年前

の家庭科の必修がなぜ男女共学に繋がるのか。③にいたっては「すり替え」である。二高教師陣を隠れ蓑に使うとして

いる。県知事・県教育委員会として教育に対する理念も責任もない、このような持って回った理屈で説明責任を果たしたとはいえない。当時の

宮城県の教育行政には合理性が欠落していたと言わざるを得ない。

(3) その後、同窓生らは仙台一高はじめ他高等学校とも連携し街頭署名を展開するなど連帯を深め、平成十六年十月には、九団体が連名で別学併存の請願を宮城県議会に提出するにいたった。次いで十二月八日、電力ホールにおいて一、三〇〇名の大集会を成功させ、その決議文を県知事・教育委員会・県会議長に提出した。もはや反対運動は一大

市民運動に発展していった。そして平成十七年二月、県には議会の決議により仙台第二高等学校の共学化を一年間延期させることができた。

(4) その後教育委員会との話し合い(仮称「仙台二高共学化調整会議」)を進めたが、教育委員会の不合理性は深まるばかりであった。同窓生有志

はそれと並行して街頭デモおよび集会を重ね、その勢いを偶然にも平成十七年十月の知事選に繋ぐことができた。辞

任を表明した前浅野知事が推薦する候補者に六万票の大差を付けて村井知事の当選に貢献した。その前・後における

反対署名の集約数は十万人を数える。しかし、教育委員会はその投票日の直前、宮城第一女子高・仙台一高等残る県立高校八校の共学化の日程を発表している。政治的中立性を放棄してまで一律共学化に狂奔していた。

(5) 村井知事当選後、共学派の強力な請願攻勢に直面する。その対抗策として別学併存派が提出したアンケート再調査の請願は大差で否決された。(6) そのような背景の中、平成十八年一月十日、村井知事は自ら諮問した仙台第二高等

学校共学化の是非について、臨時教育委員会の答申を受け、即日、十八年度予算に仙台第二高等学校共学化の工事費を盛り込むことを表明した。その共学化工事予算七、七〇〇万円は十八年二月議会において承認され、仙台第二高等学校の共学化は決定的となった。

残された共学化阻止の道は住民監査・住民訴訟の請求のみとなっていた。有志十五名は平成十八年三月住民監査を請求し、その却下を受けて、平成

十八年五月仙台地方裁判所に仙台第二高等学校工事の予算の執行停止を求めて住民訴訟を提起した。それら法律上の

権利を行使することなく不合理な行政計画を承認することはできなかった。その主張と争点は宮城県教育委員会による一律共学化決定の目的及び手段の違法性の問題であった。

(7) 事件は仙台高等裁判所の控訴審から最高裁判所への上告まで進んだが、共学化工事阻止は既成事実の進捗によって当初の目的を達することができなかった。控訴審以後は

仙台二高共学化予算策定と執行の無効確認、及び宮城県に対し、知事個人に損害賠償を請求せよとの訴えに変更して

弁論を進めたが、その請求は高等裁判所に棄却され、上告も平成十九年十一月三十日最高裁判所によって却下されて判決は確定した。

再審の権利はあるが慎重に考えざるをえない。しかし、一連の訴訟判決の中で、仙台高等裁判所は、控訴人の請求の趣旨の変更について、相手

弁護士との反論を排して、変更部分については住民監査を要しないと判断を示して係争の継続を容認した。住民訴訟について新しい道を切り開いたものと考えている。

2 住民監査・住民訴訟とは何か

(1) 住民監査とは地方自治法第二四二条の定めるところにより、地方の行政機関たる地方公共団体の長等に違法若しくは不当な公金の支出等があると認められるときに、当該地方公共団体の住民が監査委員に対し監査を請求し是正等を求める行為である。

(2) 住民訴訟とは地方自治法第二四二条の二各項の定めるところにより、右記住民監査が却下された場合に(住民監査前置主義)、違法な行為に限って、住民が訴えをもって裁判所に請求する行為である。

請求の内容としては、「差止め請求」「取消し又は無効確認」「損害賠償の請求※」等に分かれる。(※本件の場合教育委員会の違法な共学化決定を予算化したことよって宮城県(地方公共団体)が受けた損害について、知事個人に対し損害の賠償を請求するよう、県民が宮城県に代わって裁判所に訴える行為。)前述1の(7)のとおりである。いわゆる義務付訴訟のことである。

3 教育行政における県教育委員会と地方公共団体の長の権限

(1) 地方教育行政の仕組み
 ① 教育委員会の権限は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(地教行法(当時))の第二三条に規定されている。例えばその第五号には「学校の組織編成、教育課程、学習指導、生徒指導に関すること」と規定されている。これら条文等によって教育行政に関する権限は原則として教育委員会に属するものとされている。

② 一方、地方公共団体の長の教育行政の権限としては、地教行法第四条に教育委員の任命権、第七条には罷免権等が規定されているが、教育委

員会の経常業務に関連する重要条文は第二四条である。とくに同条第五号には「教育委員会の所掌に係る事項に関する予算を執行すること。」と規定され、これによって教育委員会の経常業務に関する長の権限は原則として教育行政の予算等行為に限定されることになっている。

地方公共団体の長はその権限を地方自治法第一三八条の二の誠実管理義務及び第一四九条二号の予算の専決執行権等規程にしたがって責任をもって実行する義務を負う。

(2) 教育委員会と長の権限の均衡

しかし予算の策定・執行権を持つ自治体の長の権限は強大である。過ぎれば教育委員会の業務を侵犯しかねない。両者の均衡が必要である。この問題について、最高裁第三小法廷は、平成四年十二月十五日注目すべき判決を行なった。当判決で最高裁は、「地方公共団体の区域内における教育行政については、原則として、これを、地方公共団体の長から独立した機関である教育委員会の固有の権限とすることに、教育の政治的独立性と教育行政の安定の確

保を図るとともに、他面、教育行政の運営に必要な、財産の取得、処分、契約の締結その他(予算・筆者注)財務会計上の事務に限っては、これを地方公共団体の長の権限とするにより、教育行政の財政的側面を地方公共団体の一般財政の一環として位置付け、地方公共団体の財政全般の総合的運営の中で、教育行政の財務的基盤の確立を期することとしたものと解される。」と判示した。その精神は改正教育基本法にも活かされている。しかし、同判決は、その上で「地方公共団体の長は、

右処分が著しく合理性を欠きそのためこれに予算執行の適正確保の見地から看過し得ない瑕疵の存する場合でない限り、右処分を尊重してその内容に応じた財務会計上の措置を尊重してその内容に応じた財務会計上の措置を構すべき義務があり、これを拒むことは許されないものと解するのが相当である。」と付け加えている。この追加部分については、当然反対解釈として地方公共団体の長の権限として教育委員会の決定事項についても、「著しく合理性を欠きそのために予算執行の適正確

保の見地から看過し得ない瑕疵の存する場合には長に拒否権があることを認めたものである。両者の権限の均衡を語って余すところがない。以下5に述べる本件住民訴訟において原告が強く主張したのはこの主題である。

4 本件住民監査の請求

(1) 平成十八年三月三十一日、仙台第二高等学校同窓生四名は他同窓生等十一名とともに、宮城県監査委員に対し、宮城県村井知事が平成十八年二月十六日宮城県議会に提出して、同年三月十六日議会において承認された仙台第二高等学校の一律共学化工事予算七、七〇〇万円の支出は違法・不当であり、その執行の停止を求め監査請求書を提出した。

(2) これに対し、平成十八年四月二十四日、宮城県監査委員は、請求人らの請求は財務会計行為の枠を越え、支出行為の原因行為(先行行為)

(本件の場合は、宮城県教育委員会による仙台第二高等学校の共学化の決定)の違法不当を論ずるものであって、その請求は不適法であるとして却下した。

(3) 宮城県監査委員の却下理由は、「法定」の財務会計行為に限ると称して請求の範囲を一方的に狭義に解釈するものであり(※)、前述の最高裁判所の判例にも反するものであった。(※住民訴訟の対象を財務会計行為自体の違法(予算支出行為の会計規定違反等)に限るものとするのが狭義の解釈であり、それに先行する行政行為(本件では教育委員会の決定行為)までを含むと解するのが広義の解釈である。本件住民訴訟は広義の解釈に立つ。)

5 本件住民訴訟の提訴と審理

(以下については二十一年春季号に掲載させていただきました。仙台第二高等学校にとって有史以来の大事件でしたので長文となりましたがご容赦願います。)

(4) 原告らは前述2の(2)の手続きによって以下住民訴訟を提起するにいたった。

一高共学化後の状況

生徒会長に二年生女子

同窓会教育問題担当

母校が平成十九年度に共学化されて平成二十年で二年目となる。その母校の状況の一片をお知らせする。

平成十九年度共学化初年度に推薦入試及び一般入試にて七十名の女子が合格した。(その後女子一名転入学。計七十一名。)定員は三二〇名であるので、女子の比率は二十二%である。続く平成二十年度は推薦入試及び一般入試にて九十六名が合格した。定員は同様に三二〇名なので、女子の比率は三十%となり初年度よりも高くなっている。現在の

三年生(平成二十一年三月卒業予定、高61回)が別学最終期である。尚、二年生女子数六十九は退学等による減少。

また、学級編成に於いては女子だけの学級を設けるといふ方法ではなく、各学級にほぼ均等に分布している。次表に当平成二十年十一月現在の組別在籍者数を示す。資料は学校側から提供して戴いた。現在は文科系理科系の組分けは二年生から為されていることである。また、生徒会長には二年生の女子が選挙にて選ばれている。

平成20年度組別在籍者数

学年	組	男子	女子	合計
1年	1組	28	12	40
	2組	28	12	40
	3組	28	12	40
	4組	28	12	40
	5組	28	12	40
	6組	28	12	40
	7組	29	12	41
	8組	28	12	40
		225	96	321

学年	系	組	男子	女子	合計
		1組	27	10	37
2年	文科	2組	27	10	37
		3組	31	8	39
		4組	34	8	42
		5組	34	8	42
	理科	6組	34	8	42
		7組	31	9	40
		8組	35	8	43
				253	69

2008年度 同窓会費納入状況

平成20年10月末日現在

会報 発送数	口数	入金額	会報 発送数	口数	入金額	会報 発送数	口数	入金額	会報 発送数	口数	入金額				
中27	9	2	6,000	高1	147	39	117,000	高22	279	58	174,000	高43	204	19	57,000
中28	14	2	6,000	高2	169	54	162,000	高23	195	41	123,000	高44	202	11	33,000
中29	18	2	6,000	高3	191	77	231,000	高24	201	26	78,000	高45	229	18	54,000
中30	16	3	9,000	高4	208	82	246,000	高25	197	34	102,000	高46	230	17	51,000
中31	17	1	3,000	高5	205	70	210,000	高26	224	42	126,000	高47	245	15	45,000
中32	16	2	6,000	高6	225	83	249,000	高27	207	26	78,000	高48	243	12	36,000
中33	18	2	6,000	高7	187	61	183,000	高28	203	37	111,000	高49	255	12	36,000
中34	25	8	24,000	高8	224	78	234,000	高29	193	20	60,000	高50	244	12	36,000
中35	30	7	21,000	高9	227	75	225,000	高30	189	23	69,000	高51	244	13	39,000
中36	30	8	24,000	高10	278	88	264,000	高31	185	25	75,000	高52	241	24	72,000
中37	44	12	36,000	高11	262	108	324,000	高32	166	16	48,000	高53	267	14	42,000
中38	40	9	27,000	高12	251	69	207,000	高33	154	20	60,000	高54	267	23	69,000
中39	55	18	54,000	高13	225	64	192,000	高34	136	14	42,000	高55	282	30	90,000
中40	58	16	48,000	高14	260	84	252,000	高35	147	14	42,000	高56	271	31	93,000
中41	73	20	60,000	高15	247	62	186,000	高36	160	19	57,000	高57	287	37	111,000
中42	78	32	96,000	高16	231	66	198,000	高37	150	11	33,000	高58	296	47	141,000
中43	84	35	105,000	高17	239	64	192,000	高38	160	9	27,000	高59	313	55	165,000
中44	101	34	102,000	高18	204	46	138,000	高39	173	12	36,000	高60	297	94	282,000
中45	117	46	138,000	高19	197	61	183,000	高40	176	19	57,000	合 計	14,199	2,729	8,187,000
中46	119	38	114,000	高20	178	31	93,000	高41	183	12	36,000				1口 ¥3,000-
中47	134	43	129,000	高21	252	56	168,000	高42	201	9	27,000				

同窓会総会 報告

去る七月五日(土)に江陽グランドホテルを会場にして平成二十年度同窓会総会が開催されました。出席者は約一五〇人でした。その式次第は次の通りです。

同窓会総会

(十七時～五階鳳凰の間)

開会の辞

挨拶 同窓会長 西澤潤一(中44回)

「我が国の教育は戦後米国の影響を強く受け知識教育となっている。教育とは文化を伝えることである。本校の教育のポリシーも良く考える必要がある。同窓会としても取り組むべき。」

学校長 庄司恒一(高22回)

「六月の地震のため栗駒山登山はできない。今年五月定期戦にて応援団が復活した。国際化学オリンピックに公立高校からは本校のみ。イトトン校との交流に御支援願いたい。」

来賓紹介 名簿による紹介

叙勲者の紹介

全国大会激励金贈呈

・陸上部、囲碁部、写真部、書道部、国際化学オリン

ピック日本代表(三年生 鈴木裕太)

議長選出 西澤潤一(会長選任 協議)

第一号議案

平成十九年度事業報告

第二号議案

平成十九年度収支決算報告

(1)一般会計

(2)特別会計

(3)監査報告

・共学化の影響を懸念し会費収入を低めに見込んだが、その見込みみよりは上回った。しかし、一昨年よりは減っている。

・支部集会への派遣は二名だったのを一名とするなど節約を図った。

第三号議案

平成二十年度事業計画

第四号議案

平成二十年度予算案

・校内助成は会費収入が順調なら一二〇万円にまで復することが可能。共学化問題対策費として二十万円計上。

第五号議案 新役員の承認

(計八名)

理事 麻喜宏雄(高9回)再任

理事 佐藤 茂(高28回)再任

理事 山下健二(高8回)新任

理事 田中於菟彦(高15回)新任

理事 鈴木誠一(高22回)新任

理事 中條克浪(高27回)新任

理事 高橋 敦(高30回)新任

理事 鈴木得央(高40回)新任

報告 英国イトトン校との国際親善交流事業への協力について

閉会の辞

同窓会懇親会

(十八時～五階鳳凰の間)

物故者への黙禱

開会の辞 小野秀明(高31回)

校歌斉唱

当番幹事代表挨拶

佐藤芳博(高19回)

乾 杯 山下健二(高8回)

新理事御挨拶

アトラクション

仙台相撲甚句会による

「仙台二高甚句」

応援歌斉唱

応援団幹部卒業生による旗振り

万歳三唱

同窓会副会長

佐伯康全(高8回)

和賀久佳(高32回)

閉会の辞

評議員会 報告

第一回評議員会

去る五月十四日(水)十八

時三十分から仙台二高北陵館に於いて第一回評議員会が開催された。

開会 挨拶

同窓会副会長

佐伯康全(高8回)

議長選出 高石祥二(高11回)

協議

第一号議案

理事候補者について

・理事選考委員会から理事候補者の選考結果が公表された。

・選考結果を受けての議論等

・理事として入るべき人物が入っていないのではとの指摘が多数出た。

・選考委員会の仕事は候補者の推挙であり、理事を誰にするかの決定権は評議員会に有る旨が再確認された。

・選考委員会としては理事の若返りを図った。

・特定回期の所で線を引くべきではない。

・旅費の経費を理由に遠方からの理事を推挙から外すのは本末転倒ではないか。

・委員会の努力に感謝したい。議論の中で名前の出ている二名を候補に追加

してはどうか。

理事選考委員会は議論を受け五月三十一日評議員会にて再提案することとなった。その他

・イトトン校との交流事業について

・総会の準備について

閉会 二十一時五十分

第二回評議員会

総会に向け

去る五月三十一日(土)十四時から仙台二高北陵館に於いて定期総会へ向けて第二回評議員会が開催された。

開会

挨拶

同窓会長 西澤潤一(中44回)

議長選出 岡崎 忠(高14回)

協議

第一号議案

平成十九年度事業報告

・会報四十号訂正頁発行に係わる追加費用の分担に関する報告が為され了承された。

第二号議案

平成十九年度収支決算報告

(1)一般会計

(2)特別会計

(3)監査報告

・年会費の入金状況について今年度は三〇〇〇人を想定している。昨年度は

二九〇〇人だった。会報四十号に係わる追加費用の分担については会報印刷会社と協議によるもの。

・同窓会の会員データについては管理体制を見直すこととした。

第三号議案

平成二十年度事業計画案

第四号議案

平成二十年度収支予算案

・二高奨学会の内容の説明を求める意見があった。

・電子広報委員会は、旧規約下で存在していたIT委員会とは別のものであり、同窓会の公式ウェブサイトの運営管理を行う委員会である。サイトの運営費用については複数の社から合い見積もりを取った上で、最少の額を示した社を相手に費用交渉を行い更に経費の圧縮を図ったとの説明が為された。

・学校側への助成金は早めに出すべきではないかの意見有り。

・学校への助成金については、県立高校は県費で賄われていることを理由に共学化が強行されたのであるから、同窓会に支援

を求めて来るのは筋違いだとの意見あり。

第五号議案

役員の変更

前回五月十四日評議員会の議論を受け理事選考委員会は改めて理事候補者を提示した。そして、評議員会として次の八人を理事候補者として総会議案とすることを決議した。

山下 健二（高8回）
麻喜 宏雄（高9回）
田中於寛彦（高15回）
鈴木 誠一（高22回）
中條 克浪（高27回）
佐藤 茂（高28回）
高橋 敦（高30回）
鈴木 得央（高40回）

第六号議案

英国イートン校との国際親善交流事業について

・もう少し資料を集め理事会で検討を行うべき、寄付を募るに際しては責任団体を明示することが不可欠である、支援要請があるなら今年学校への助成金を増額した分で賄ってはどうか等の意見有り。

その他の協議等

会長提案の教育講演会について

・会長から、「何で共学が必要なのか県は説明できてい

ない。識者をお呼びひでの講演については私の方から（依頼等）を行っても良い」とのお言葉有り。

連絡報告

同窓会総会及び懇親会の開催について
閉会 十七時三十五分

第三回評議員会―総会の結果を受け

去る九月二十日（土）十四時から仙台二高北陵館に於いて定期総会の結果を受けて今年度第三回評議員会が開催された。

開 会

挨拶

会長より山下（高8回）麻喜（高9回）佐藤茂（高28回）の三名が副会長に指名された（司会戸田事務局局長代読）。

議長選出 磐井 裕（高14回）

協 議

第一号議案
新任会計理事の選出

・鈴木得央（理事 高40回）を選出

第二号議案
新任会計監事の選出

・犬飼健郎（前会計監事 高17回）
再任

・安藤 裕（元会計理事 高18回）
新任

第三号議案

新理事の会務分担

・総務 山下、麻喜、鈴木

誠一

・名簿 麻喜、田中

・会報 佐藤、高橋

・広報 中條、佐藤

・教育問題 山下、麻喜、佐藤

・会計 山下、鈴木得央

第四号議案

教育講演会の実施

・共学化問題を踏まえ、教育に關して識者をお呼びし講演して頂くことを検討中。

・更に検討と詰めを行うべきこととなった。

第五号議案

イートン校との国際交流事業について中間報告がなされ質疑応答が為された。

・学校側から事業費支援の要請があった。

・共学化の理由「県立高校は県費で賄われているから」が有る以上、県に求めるものであり同窓会から出すべきではない。

・学校側の説明は充分な答にはなっていないのではないかの指摘有り。

・同窓会による資金援助の根拠を示すことを条件に

赤字分の額を支援することとした。

第六号議案

専門委員会の設置について議論

・会則改正委員会については平成十七年総会にて新規約が成立した時点で消滅と考えるべきものである。会則改正の必要が有るなら理事会から提案を出すべき。

・目下会報次号の編集に向けて準備中である。編集体制を充実させるため会報編集委員会を設置する方向で準備中。委員を募っており既に一名目処が立ったが、もう一名必要である。

その他

奨学会について同役員を務める柴田評議員（高1回）から簡単な説明が為された。

連絡報告

会報（次号第41号）への投稿募集

閉 会 十六時三十分

PTA・同窓会合同新年懇親会開催のお知らせ

日時：平成21年1月23日（金）
18時20分より
会場：ホテルメトロポリタン仙台4F「千代」
仙台市青葉区中央1-1-1
TEL 022-268-2525
会費：5,000円（予定）
参加をご希望の方は、12月24日（水）まで同封の申込用紙でFAX送信か又は電話で同窓会事務局までご連絡ください。
同窓会事務局 北陵館内
FAX 022-221-5686 ☎022-221-5651

総会・評議員会・ 理事会等記録

平成19年12月18日(火) 柏葉校長との懇談 共学化後の状況について。

平成19年12月18日(火) 理事会 会報発行の状況について。理事選考委員会の進捗について。同窓会公式サイトについて。

平成20年1月11日(金) P T A・同窓会合同新年懇親会 平成20年1月29日(火) 理事会 会報の発行費用について。クラブ活動助成金について。

平成20年2月19日(火) 理事会 同窓会公式サイトについて。会報編集方針について。平成20年3月25日(火) 理事会 教育講演会について。名簿管理ソフトについて。

会報編集方針について。同窓会公式サイトについて。平成20年4月17日(木) 理事会 会報編集方針について。理事選考委員会の経過について。

平成20年4月26日(土) 理事会 平成20年度予算案について。イトトン校との交流事業について。

平成20年5月14日(水) 評議員会 理事選考委員会から報告。

平成20年5月29日(木) 理事会 理事選考委員会の経過報告。評議員会に向け準備。

平成20年5月31日(土) 評議員会 総会に向けた議案の立案。理事選考委員会から報告。教育講演会について。イトトン校との交流事業について。

平成20年6月23日(月) 理事会 総会に向け準備。イトトン校との交流事業について。教育講演会について。平成20年7月5日(土) 総会 事業報告、収支決算報告、事業計画・予算案・新理事の承認等

平成20年7月26日(土) 理事会 役割分担の決定。次回評議員会の日程・議題案を策定。

平成20年8月30日(土) 会報次号へ向けての打合せ 平成20年9月10日(水) 庄司校長との懇談 応援団の現状について他

平成20年9月10日(水) 理事会 イトトン校交流実行委員会から中間報告。教育講演会について。評議員会に向けて準備。

平成20年9月20日(土) 評議員会 会長により副会長三名の指名。理事役割分担の発表。イトトン校との交流事業に関する中間報告

新理事就任の御挨拶

理事(新任) 副会長

高8回 山下 健二



向後二年間、主に次の三点に留意しながら
会務に邁進したいと考えています。

一、同窓会活性化の推進

同窓生の年代層の拡大に伴い、その価値観や関心事も多岐・多様化しています。一方、同窓会の活性化のためには、若い同窓生の積極的な参画が欠かせません。そしてこのためには、理事会・評議員会・

常任委員間の適度な緊張感と信頼感を基盤とした協力関係のもとに、みんなで知恵を出し合って行かなければなりません。同窓会の明日のために、その推進に努力しなければなりません。母校に対する強い関心「学校関係者」といわれる

平成20年10月8日(水) 理事会 名簿管理用ソフトウェアの現状を確認。平成20年11月19日(水) 理事会

ものに、生徒・保護者・先生・同窓会があります。この内、生徒達は無我夢中で三年間を駆け抜けます。わが子大事の保護者も三年単位で代わりま

す。公務員である先生方も転勤で頻繁に入れ替わります。唯一同窓会が定点観測的視点で母校を見つめることのできる存在なのです。同窓会は今後とも母校の変化を注意深く見つめ続けて行きます。

三、新「県立高校将来構想」への注視

無謀とも思える県立高校一律共学化の元凶となった平成十三年三月策定の「県立高校将来構想」は、二年後にその期限を迎えます。これに伴い、平成二十三年度から適用される新たな「県立高校将来構想」の策定作業が目下、県教委を中心に進められています。新構想では、県立高校の一層の統廃合や再編成が進められる

ことになるものと思われま

理事(再任) 副会長

高9回 麻喜 宏雄

副会長に再任されました。皆様の建設的な御意見をお待ち致します。

理事(再任) 副会長

高28回 佐藤 茂

理事に再任され副会長の任を仰せつかりました。母校の健全な発展と同窓会活動の充実に努力致します。

理事(新任)

高15回 田中於菟彦



このたび理事に就任いたしました。高15回の田中於菟彦と申します。卒業してはや四十五年を過ぎ、思い返せば二高も大きく変わろうとしている今、新理事として後輩の皆様方と同窓会が今後どのように変化していくのか、また、同窓会の運営のあり方、在校生への活動支援・インターネットを活用して部活の結果報告等、同窓

生諸氏に伝え、若い人々が気軽に参加できる総会等にしていきたくと考えます。

「文武一道」の教えを基に今後の我が仙台二高の発展のため、微力ではありますが努力してまいりたいと思います。
理事(新任)



高22回 鈴木 誠一
この度、
新理事に推
挙されまし
た高22回の

鈴木誠一です。同期の庄司恒一氏が仙台二高の校長として活躍している同じ時期に大役を仰せつかり、身に余る光栄です。同窓会の活性化の為に知恵を絞り、汗をかきます。
一、庄司恒一校長を支え、母校と同窓会の発展に寄与する。
二、明るく楽しい同窓会を築く。特に若い人が気軽に集える同窓会をめざす。
三、同窓会の活性化の為に、名簿のリアルタイムの整備に着手する。

早稲田大学校友会宮城支部 仙台稲門会の幹事長を兼務しておりますので、有機的な交流を考えております。サイレントマジョリテイの声を多く反映していきたいと考えてお

ります。よろしくご指導お願いします。
モットー/万象我師。完全燃焼。あなたとの出会いを大切にします。

理事(新任)
高27回
なかしょう 高橋 敦
先と同窓
会総会で理
事に選任さ
れました高



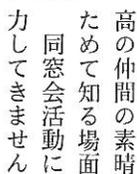
高27回 高橋 敦
昭和三十年三月に母校を卒業以来三十三年が過ぎ、その間、総会やP同窓の当番幹事等でしか同窓会と関わる事がなかった私ですが、このたび理事の大任を引き受けることになり、共学化問題で揺れ動いた同窓会が新たな会則の下、どのような方向に向いていくのか?微力ながらも同窓会と母校の発展のため、誠心誠意二年間という任期を全うしたいと考えておりますので、会員各位のご協力をお願い申し上げます。

27回の中條です。
昭和三十二年三月に母校を卒業以来三十三年が過ぎ、その間、総会やP同窓の当番幹事等でしか同窓会と関わる事がなかった私ですが、このたび理事の大任を引き受けることになり、共学化問題で揺れ動いた同窓会が新たな会則の下、どのような方向に向いていくのか?微力ながらも同窓会と母校の発展のため、誠心誠意二年間という任期を全うしたいと考えておりますので、会員各位のご協力をお願い申し上げます。

高30回 高橋 敦
高橋敦です。
どうぞ、よろしくお願
いします。現役時代は硬式野

球部に所属し、卒業後、OB会である青葉倶楽部の一員として後輩を応援してきました。高30回の同期生は、宮城県庁に勤務する仲間を中心とした努力で、何度か集まりをもっています。三十代、四十代になって同期生に会うと、さまざまな感慨がありますし、二

高の仲間の素晴らしさをあらためて知る場面もあります。同窓会活動にはほとんど協力してきませんでしたが、理事を務めることになり、活発な同窓会を目指し、できる限りのお手伝いをしようと思いを引き締めています。



高40回 鈴木 得夫
この度新
たに会計理
事に就任い
たしました

高40回の鈴木得夫です。私はこれまで、同窓会活動にはほとんど参加していませんでした。私と同年代、あるいは私より若い年代の同窓生にも、同窓会活動に無関心な人は少なからずいると思います。しかし、そのような人達にも母校を想う気持ちは必ずあるはずです。私は、最年少の理事として、これからの同窓会を

支える若い人たちに一人でも多く同窓会活動に参加してもらえよう、微力ながら努力

支える若い人たちに一人でも多く同窓会活動に参加してもらえよう、微力ながら努力
**常任委員は
同窓会活動の絆
です。**
理事会

仙台二高同窓会では各回期ごとに数名の常任委員の選出をお願いしています。それは、常任委員の方に同窓会のキーマンとして大いに活躍していただきたいからです。常任委員には概ね次のような活動が期待されています。

一、評議員会と一般同窓生間のパイプ役
常任委員は、評議員会の様子を同回期の同窓生に伝えると同時に、一般同窓生の意見や要望をこまめに汲み取り、同回期の評議員に伝達する重要な役割を担っています。

二、評議員会での意見の開陳
常任委員は、同窓会にとつて良いと思われる考えや情報を理事や評議員に伝えるために、評議員会に出席し、意見を述べる役割を担っています。

三、会費納入の促進
同窓会活動は同窓生の会費で運営されています。会費の納入が減ってしまうと、その

分だけ同窓会活動も停滞してしまいます。常任委員は、同回期の同窓生に対して会費の納入を奨励する役割を担っています。同窓会活動を生かすも殺すも、常任委員の皆さんの双肩に懸かっていると云っても過言ではありません。

四、同窓生名簿管理の中心的存在
常任委員は、同回期の同窓生の消息を把握できる最適任の立場にあります。

同窓会報をはじめ、同窓会からの色々な発送書類が、亡くなった方の所に繰り返し送られてしまい、御家族から郵便を買収することがあります。また、宛先不明で返送されてくる書類もかなりの量に上り、郵送費の無駄につながっています。

これらのことは同窓生の消息がうまく把握できていないことから起こるのです。常任委員の方には大変ご苦勞をお

受けておられることと存じます。同窓会報をはじめ、同窓会からの色々な発送書類が、亡くなった方の所に繰り返し送られてしまい、御家族から郵便を買収することがあります。また、宛先不明で返送されてくる書類もかなりの量に上り、郵送費の無駄につながっています。

かけますが、常に同回期生の消息を把握し、最新の状態で同窓生名簿に反映するための中心的存在としての役割が期待されているのです。そういう意味でも常任委員の皆さんは、正に「同窓会活動の絆」なのです。

そしてこれだけ重要な役割を担っているのですから、その去就は一層大切になります。ついては、常任委員の皆さんには次のことを実行していただきますようお願いいたします。

- ①各回期どなたが常任委員なのか再確認下さい。回期ごと若干名置くことが出来ます。改めて決めて下さっても結構です。
- ②常任委員を辞める場合は、同回期生間で協議し、必ず後任者を指名の上、同窓会にも御連絡ください。
- ③各常任委員にも郵送される評議員会の開催案内の「出欠連絡欄」を使って、同窓会宛に必ず出欠の連絡をしてください。
- ④常任委員ご本人の住所変更等があった場合にも必ず同窓会宛にその旨のご連絡をお願いします。

現役生徒の活躍

**国際化学オリンピック
ハンガリー大会 銅メダル!**
**硬式野球部甲子園予選
四強入り 20年ぶり!**

「国際化学オリンピック 日本代表として」

三年八組 鈴木 裕太

去る七月、私は日本代表選手の一人名として第四十回国際化学オリンピック・ハンガリー・ブダペスト大会に参加した。国際化学オリンピックは、各国で選抜された世界中の高校生を対象に、実験・筆記の試験により化学の能力を競わせ、また参加者同士の交流親睦を図るイベントで、年に一度開催される。四十回を数える今回の大会は、三ヶ国により行われた第一回の開催地であるハンガリーでの開催で、参加

国も六十カ国を超えた。

三月に思いがけず代表に選ばれて以来、二高生活最後の大運動会を泣く泣く欠席しての実験合宿など、大会に向けて訓練を重ねてきた。初めての海外渡航を楽しみに思う気持ちもあった。しかし大会が近づくにつれ、完全ではない準備や、東北初の代表として過去の先輩方の輝かしい成績に続かなくてはならないプレッシャーなどから不安を感じたことを覚えている。

ハンガリーに着いてから、飲料水が日本のようにタダ同然では無いことをはじめ戸惑うことは多くあったが、私が最も驚いたのは、他国の代表選手が皆英語に堪能であることだった。私は英語は得意だと自負している方だが、いざ話すとなるとどうしようも失敗を恐れ尻込みしてしまいう、その心理的障壁の大きさを思い知った。だがその

抵抗がひとたび無くなればそこそこ話せるもので、眨められがちな学校英語も十分実用に堪えるのだと再確認できた。

他国の選手とは、お土産の交換や、カードゲームをして交流した。私はルービックキューブの小コンテストにも出たが、惨敗だった。このような他国の選手との交流を通して、日本の高校生と他国の高校生が、もちろん文化や人種が違っていても、それ以上に「同じ」であることを理屈ではなく実体験として感じ取れたのが大きい。

オリンピック自体の私の成績はほぼ真ん中の順位で、銅メダルを頂くことができた。日本は四人とも銅メダルだったが、たとえば中国は全員が金メダル(上位一割)を獲得するなど、世界のレベルの高さも思い知らされた。

再来年の二〇一〇年には日本で化学オリンピックが開催される。将来海外へ行くことはあっても、同年代の高校生がこうして一堂に会する機会は減多に得られないだろう。一年生には、ぜひ代表一次選抜を兼ねる次回の化学グラ



選抜を兼ねる次回の化学グラ

ンプリに挑戦して欲しい。最後になりますが、夜遅くまで実験に付き添って頂いた渡辺尚先生をはじめ、応援してくださいました先生方、そして同窓会の皆様に感謝と御礼を申し上げます。

野球部

「夏」

三年三組 高橋 拓也

今思い返してみると、私達が挑んだ戦いは、ほんの一瞬の出来事だったように思える。

「甲子園」——その言葉を胸に、チーム一丸となって夏へ挑んだ。自分達は勝てるだけの練習をしてきたはずだ。誰もがそう自負し、自信を持っていた。

いざ迎えた本番、勝ち上がって行くなかで、楽な試合は一試合もなかった。一回戦、二回戦と逆転による僅差の勝利、三回戦、両者一步も譲らずゼ口行進、やっと九回に一点を先取したかと思うと、その裏に同点に追いつかれる。その後なんとか加点し、延長の末勝利をおさめた。そして、二十年ぶりのベスト4進出を掛けた対聖和学園戦。三回に一挙四点を先取される苦しい展

開、以前までの私達ならば、そのまま一気に相手のペー
スに吞まれていただろう。
しかし、「甲子園」へ懸ける想い、これまで苦しい試合を経験し、勝ち上がって



きた自信、誰一人諦めることなく必死で相手に食らいついた。その我慢が実を結び、なんとか追いついて、その後の延長再試合を経て、見事勝利を収めることができた。勝利、そして自分達が成長した喜びを感じることでできた試合だった。だが、次の決勝を掛けた対東北戦で、私達の夏は終わった。すべてが及ばなかった。私達が積み上げてきた長く苦しい努力を考えると、その成果を発揮する場はあまりに短かった。しかし、その一瞬とも言える時間の中に私達は十分な満足感を得た。また、仙台二高最後の男子学年として、有終の美を飾ることはできなかったが、何らかの軌跡は残せたように感じる。最後に、私達の夏とそれに

至るまでの過程を支え、そして応援して下さったOBの方々ははじめとするすべての皆様に感謝を申し上げます。たいと思います。この夏は、私達にとって最高の夏でした。本当にありがとうございました。どうぞごさいま

写真部部长

「全国展に参加して」

三年八組 **八木沼瑞紀**

真夏日が続く八月の群馬、高校写真部の全国大会ともいえる総合文化祭・写真部門が開催された。今、思い返してまず浮かぶのは撮影登山で訪れた谷川岳の峰の鋭さだが、それ以上に強い印象を残すのは会場で出会った人たちの感性であった。

全国から集まった四〇〇名あまりの高校生はそれぞれ写真に対して独自のスタンスを持っていた。彼らの写真は絵画的に対象の美しさを引き出すように表現の滑らかさを高め、アイディアの奇抜さ

を狙った現代アートのようなものなど、ひとことで「写真」というには幅が広く、いわば自分の追求するものを写真という形を借りてあらわしたといふべきものであった。中には写真家を目指しているという人もいて、彼らとの交流は大変刺激的だった。彼らの写真は、光の当て方や色彩構成をとってみても、細部にわたって計算されたものであり、私はその素晴らしさにただ圧倒された。また地域的にも、滋賀や岐阜、島根、愛媛など各地の人と交流を持てたことは全国大会ならではのことで、普段そのような機会をもたない私は新鮮に感じた。

結果からいえば、残念ながら私たちは全国展では入賞はできなかったものの、全国から集まったさまざまな感性を持つ人たちと出会えたことは大きな収穫だった。最後にありますが、写真部の活動のメインは現在でもフィルムフィルムの自家現像であり、OBの先輩や父兄の方々から、多くの現像機器やレンズの提供を受けて活動が行えています。そして今まで活動を支えて下さった顧問の先生方、現像手法を教えて下さった先輩方に感謝いたします。



〔谷川岳：一ノ倉沢〕

これから完全共学となる後輩の皆さんには、男子のセンストと女子のセンスを合わせて新しい写真にぜひチャレンジしてほしいと思います。そしてたくさんした後輩に写真の楽しさを味わってもらいたいです。

書道部

「書」という道

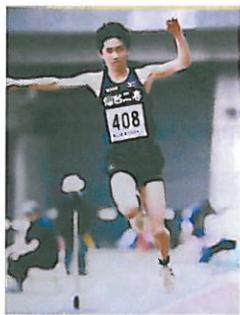
三年一組 **日野 慎也**

昨年七月、私の作品製作は始まった。二年連続全国高等学校総合文化祭という、偉大なる先輩方の功績に続くこと、満を持してのスタートだった。私が出品したのは書道の中の「刻字」と呼ばれる分野で、文字を書き、それを板な



どに写して彫り、着色をして作品とするというものである。本校に入学後、私は「刻字」と出会った。文字を立体的に表現することによって生まれる迫力と美術性に心引かれ、本校書道科講師であられる田代明眸先生のご指導もあり、この道を歩み始めた。

全国高等学校総合文化祭に出場するためには、前年度の県高校書道展で最高賞の推薦賞を受賞し、さらに審査会で先生方の投票による代表選考を勝ち抜かなければならず、かなりの狭き門である。目標とはしていたが、まさか本当に選出されるとは思っていなかったために、喜びもひとしおであった。八月に群馬での総合文化祭に参加したが、他都道府県の作品のレベルの高さを痛感し、自分の未熟さを感じた。しかし、全体会での



講評と特別賞という身に余る光栄により、賞に恥じぬようさらに書の道に精進していかねければと思う良い契機となった。そして、これからもこの道を勇往邁進していきたいと考えている。

最後に、ここまでご指導いただいた先生方や協力してくれた友人達に感謝申し上げますとともに、長年の悲願が叶い創設された書道部を温かく見守って下さるよう皆様にお願いを申し上げて、結びとさせていただきます。

陸上部
「インターハイに出場して」
三年一組 渡辺 康太

三段跳びは非常に奥が深い競技である。スピード、タイミング、バランス、全てが一体となったときに初めて最高の跳躍となる。何故日本でこんなに競技人口が少なく、マイナーな種目となっているのか、私には皆目分からない。(因みに日本人初の五輪金メダルは三段跳びである。)

七月三十一日、快晴の空の下、インターハイ陸上競技会場に到着した。埼玉県熊谷市——昨年日本史上最高気温を叩き出した町である。私も同行したS君も、「暑い」以外の言葉は出て来なかった。会場の外には、東北大会の十倍はあるかという数のスポーツメーカーのテントが所狭しと軒を連ね、正に「一大祭典」と化していた。特に驚いたのは、大会関係者用カードを持って行くとスポーツドリンクが無料配布されていたことだ。私もS君も五本以上もらった。(本当は一人一本らしい)

決戦は二日後だったので、その日と翌日はサブトラックで軽い調整練習をして、他の競技を観戦することにした。「インターハイは参加することに意義がある。」

観戦中、終始私の心の中にこの言葉が渦巻いていた。もしかしたら、唯々全国のレベルの高さに圧倒され、自分もこの中で戦わなければならないことへの不安を掻き消したかっただけだったのかもしれない。とうとう陸上人生最後の日。

それまで心中には様々な緊張や不安があったが、三回の試技は思っていたより遥かに早く、呆気なく終わった。記録は自己ベストにも遠く及ばないものだったが、不思議と満足感に包まれていた。中学時代、仙台市の大会ですら入賞できなかった私がインターハイの舞台に立つなんて、一体誰が想像できただろうか。競技終了後、応援に来てくれた部員達に胸上げを受けた。本当に幸せだった。

最後に、これまでの集大成に最高のフィールドで戦えたことを、共に競い合い高め合った仲間たち、温かく指導し見守ってくださった黒崎・菊池両先生、入学当初から御世話になり、昨年私がインターハイ出場を約束した藤倉先生、その他私の陸上人生に関わった全ての人に、心より感謝します。陸上をやってよかった。

時の喜びは格別のものだった。その一ヶ月後、私達は東京の日本棋院での全国大会に臨んだ。参加校は開成高校や筑波大学附属駒場高校等、過去に素晴らしい成績を残した有名校が揃っていた。予選を勝ち上がることを目標としていた私は、その強豪校の名前に圧倒され、「一勝でもできればいい。」と弱気になりかけていた。しかし、団体戦は一チーム三人で構成され、二勝できた方が勝ちと言いうシステムだ。だから、仲間達の力を信じ一人一人が自分の力を落着いて出し切ることが重要なのである。実際、副将であった私は予選でかなり負けたが、大将の星哲彦君と三将の大山佳太君の二人のおかげで、仙台二高は全勝で予選リーグを勝ち抜くことができたのである。そして決勝トーナメント一回戦で

は、三人全員が気を吐き三勝して準決勝へと進むことができた。この後、準決勝と三位決定戦では下関西高校と開成高校に惜しくも敗れたが、第四位入賞という成績を収めることができたのである。

今回の大会に出場して、普通の大会では味わったことのない貴重な経験を数多くすることができた。全国での戦いがいかに厳しいかを肌もって感じる事ができたし、そしてその中で勝ち抜くためには仲間を信頼し、自分の力を出し切ること、つまり囲碁は個人ゲームだが、団体戦はチームゲームだということを再認識することができた。

最後に、今まで私達を支えてくださった顧問の先生や先輩・OBの方々から御礼を申し上げます。



同窓生からの 寄贈本

平成十九年十二月〜平成二十年十一月

- 〔再検証〕南京で本当は何が起こったのか 高14回 阿羅 健一様
- みちのくの天才たち 高34回 喜多 雅文様

部 活 動 の 成 果
運 動 部 成 績

大会名 部 名	平成19年度		平成20年度	
	新 人 大 会		定期戦	総 合 体 育 大 会
硬式野球部	地区トーナメント 2回戦 仙台二5-2宮城工 3回戦 仙台二15-1泉館山 ブロック 決勝 仙台二0-6東北ブロック2位県大会出場 県大会 2回戦 仙台二1-8佐沼	仙台二 仙台一 5-0 勝ち	地区トーナメント 2回戦 仙台二10-0泉館山 3回戦 仙台二3-1東北学院 ブロック 決勝 仙台二9-17東北ブロック2位県大会出場 県大会 1回戦 仙台二1-4気仙沼 甲子園予選 2回戦 仙台二5-3蔵王 3回戦 仙台二3-1中新田 4回戦 仙台二5-1仙台工 準々決勝 仙台二0-0聖和 延長15回引き分け再試合 仙台二3-0聖和 準決勝 仙台二0-9東北	
軟式野球部	1回戦 仙台二2-1東北 2回戦 仙台二3-4東北学院	仙台二8-6仙台一 勝ち	1回戦 仙台二0-5気仙沼	
陸上競技部	県新人大会 100M 5位 加藤 徳恵 400M 3位 崔 裕貴 800M 3位 青田 有馬 6位 佐藤 卓磨 4×100MR 6位 (青木・崔・吉田・加藤) 4×400MR 6位 (青田・佐藤・荒川・崔) 三段跳 1位 渡辺 康太 東北新人大会 三段跳 3位 渡辺 康太		県総体 100M 7位 加藤 徳恵 200M 8位 加藤 徳恵 800M 2位 荒川 和哉 6位 佐藤 卓磨 三段跳 1位 渡辺 康太 5位 田子 竜也 東北大会 三段跳 5位 渡辺 康太 インターハイ出場 全国高校総体 三段跳 予選2組 24位 渡辺 康太	
水 泳 部	<競泳> 県新人大会 100m自由形 原田 健登 第4位 200m自由形 原田 健登 第4位 東北新人大会 100m自由形 原田 健登 第8位 200m自由形 原田 健登 第8位 <水球> 県新人大会 仙台二2-12柴田 第2位 東北選手権大会 第4位 県室内選手権 第2位 東北室内選手権 第4位		<競泳> 県総体 男子100m自由形 原田 健登 第2位 男子200m自由形 原田 健登 第4位 男子100mバタフライ 斎藤 自快 第5位 男子200mバタフライ 斎藤 自快 第6位 男子400m個人メドレー 中角 美穂 第6位 男子400mR (原田、斎藤、佐々木、横田) 第3位 男子800mR (原田、斎藤、佐々木、横田) 第5位 女子400mMR (渡部、横田、斎藤、佐々木) 第6位 東北大会 200m自由形 原田 健登 第6位 400m自由形 原田 健登 第8位 <水球> 県総体 第2位 東北総体 第4位	
サ ッ カ ー 部	地区予選 県大会 仙台二8-0宮城広瀬 1回戦 仙台二1-0古川工 仙台二1-1仙台 2回戦 仙台二2-1仙台育英 仙台二0-2仙台商 3回戦 仙台二0-3聖和 代表決定戦 県ベスト8 仙台二2-1泉館山		地区予選 仙台二1-0仙台工 仙台二4-0泉松陵 仙台二0-0宮城県工 県大会 1回戦 仙台二1-0石巻商業 2回戦 仙台二1-2東北 県ベスト16	
ラグビー部	予選リーグ 仙台二10-32宮城水産 仙台二5-5東北学院 仙台二5-24佐沼	昨年度はOB戦、現役戦とも勝利しました。今年度は二高にて元日開催予定です。ぜひおいで下さい。	1回戦 仙台二0(0-12)36白石工業	
ハンドボール部	1回戦シード(第5) 2回戦 仙台二26(14-10)25仙台西 準々決勝 仙台二16(6-8)20古川工 県ベスト8	勝利 仙台二 仙台一 25(10-10)20	2回戦 仙台二21(10-9)18仙台商 準々決勝 仙台二16(9-7)23仙台一 県ベスト8	
バスケットボール部	仙塩地区予選会 仙台二90-44黒川 " 104-68富谷 " 71-56仙台向山 " 60-90仙台 " 75-71宮城広瀬 " 31-139明成 " 60-80東北学院 " 68-70仙台商業 地区6位 県大会出場 県大会 2回戦 仙台二97-89石巻 3回戦 " 55-74仙台商業 3回戦敗退 ベスト16	勝ち 64-62 通算成績 32勝26敗	仙塩地区予選会 仙台二94-53仙台商 " 88-64宮城工業 県大会 1回戦 仙台二123-101涌谷 2回戦 " 75-66気仙沼 2回戦 " 67-97宮城広瀬 3回戦敗退 ベスト16	
バレーボール部	1回戦 仙台二2-0伊貝 2回戦 仙台二2-1岩ヶ崎 3回戦 仙台二0-2東北学院 ベスト16進出	勝ち 3-0 (25-22 30-28 25-23) 通算29勝29敗	1回戦 仙台二2-0宮城農 2回戦 仙台二0-2白石工	

大会名 部 名	平成19年度		平成20年度	
	新 人 大 会		定期戦	総合体育大会
テニス部	団体 仙台二1-4 東北学院			団体 仙台二1-2 黒川
ソフトテニス部	団体戦 1回戦 仙台二②-0 石巻好文館 2回戦 仙台二②-0 小牛田農林 3回戦 仙台二0-②東北 個人戦 1回戦 佐藤(雄)・武田 ④-1 古川工 田部・佐藤(秀) ④-0 石巻西 小原・鈴木 1-④白石工 木村・菅原 2-④白石工 中島・田中 ④-3 石巻商 2回戦 佐藤(雄)・武田 ④-0 利府 田部・佐藤(秀) 0-④本吉響 中島・田中 0-④仙台三 3回戦 佐藤(雄)・武田 ④-2 仙台三 4回戦 佐藤(雄)・武田 3-④大河原商 佐藤(雄)・武田組は県インドア大会出場		仙台二 仙台三 ③ - ② 仙台二 仙台一 1 - ④ 1位 仙台一 2位 仙台三 3位 仙台三	団体戦 1回戦 仙台二②-1 宮城広瀬 2回戦 仙台二②-0 気仙沼西 3回戦 仙台二1-2 白石工 個人戦 1回戦 中島・田中 ④-2 仙台工 2回戦 中島・田中 2-④石巻商 木村・鈴木 3-④白石工 小原・佐藤(秀) ④-2 東北 武田・佐藤(雄) ④-0 塩釜 3回戦 小原・佐藤(秀) 2-④仙台商 武田・佐藤(雄) 2-④利府
卓球部	団体 2回戦 仙台二1-3 仙台一 シングルス 2回戦 和田、堀之内			団体 1回戦 仙台二3-1 涌谷 2回戦 仙台二0-3 東北 シングルス 2回戦 堀之内
バドミントン部	男子団体戦 1回戦 仙台二3-1 多賀城 2回戦 仙台二0-3 宮城県工業 女子団体戦 1回戦 仙台二3-1 志津川 2回戦 仙台二0-3 常盤学園			男子団体戦 1回戦 仙台二0-3 仙台工業 女子団体戦 1回戦 仙台二0-3 角田
弓道部	仙塩大会 男子Aチーム(松永・庄司・安藤・室川・袖澤) 予選 7中 敗退 Bチーム(芳賀・高橋・佐々木・鈴木・高村) 予選 6中 敗退 女子団体(多田・高木・芦澤・宮本) 予選 2中 敗退 県大会 男子Aチーム(松永・庄司・芳賀・高橋・袖澤) 予選 40射20中で通過 準々決勝 20射4中で敗退 Bチーム(安藤・佐々木・室川・鈴木・高村) 予選 40射13中で敗退 個人 庄司 慧 準決勝進出 12射8中 女子団体(多田・高木・芦澤・宮本) 予選 12射2中で敗退		5/12月)ともに 3チームで対戦 計9試合行い、 6勝3敗で勝利	仙塩大会 男子Aチーム(高橋・庄司・松永・工藤・高村) 予選 10中で通過 決勝トーナメント 1回戦 対利府A 13-10で勝利 準々決勝 対泉A 9-11で敗退 Bチーム(鈴木・芳賀・室川・宮川・安藤) 予選 12中で通過 決勝トーナメント 1回戦 対仙台一 8-10で敗退 Cチーム(佐々木・我妻・山並・袖澤・齋藤) 予選 5中で敗退 女子団体(芦澤・宮本・多田) 予選 4中で敗退 県大会 男子団体(高橋・庄司・室川・宮川・高村・松永・安藤) 予選 40射21中で通過 準々決勝 20射10中で敗退 個人のみ参加(鈴木・芳賀・我妻・工藤・袖澤) 女子団体(芦澤・宮本・多田) 予選 12射7中で敗退
柔道部	団体戦 個人戦 60kg級 庄子 予選敗退 66kg級 佐藤 予選敗退 予選通過		1月 3人残して負け 5月 3人残して負け	団体戦 予選敗退 個人戦 60kg級 庄子 予選敗退 66kg級 佐藤 予選敗退
剣道部	男子団体予選リーグ 仙台二2-1 古川工業 仙台二4-0 東北工大 決勝トーナメント 1回戦シード 2回戦 仙台二0-3 仙台育英 ベスト16 男子個人戦 2回戦 伴(仙台二)〇-×角(仙台西) 3回戦 伴(仙台二)〇-×赤岩(河南) 4回戦 伴(仙台二)〇-×小長根(仙台工) 5回戦 伴(仙台二)〇-×駒米(名取北) 準々決勝 伴(仙台二)×-〇雪田(仙台) ベスト8 2回戦 手嶋(仙台二)〇-×岩間(仙台南山) 3回戦 手嶋(仙台二)〇-×千葉(道桜) 4回戦 手嶋(仙台二)〇-×日下(東陵) 5回戦 手嶋(仙台二)×-〇菅野(小牛田) ベスト16 女子個人戦 1回戦 松田(仙台二)〇-×斉藤(白百合) 2回戦 松田(仙台二)〇-×鈴木(石巻好文館) 3回戦 松田(仙台二)×-〇早坂(柴田) 1回戦 下瀬川(仙台二)〇-×熊谷(尚綱) 2回戦 下瀬川(仙台二)〇-×細越(石巻西) 3回戦 下瀬川(仙台二)〇-×伊藤(石巻商) 4回戦 下瀬川(仙台二)×-〇大塚(柴田) ベスト16			男子団体予選リーグ 仙台二3-1 白石 仙台二5-0 登米 決勝トーナメント 1回戦 仙台二5-0 電波高専 2回戦 仙台二3-1 泉 準々決勝 仙台二0-4 小牛田 ベスト8 女子団体予選リーグ 仙台二2-3 仙台育英 仙台二2-2 名取北 男子個人戦 2回戦 伴(仙台二)〇-×高橋(宮城広瀬) 3回戦 伴(仙台二)〇-×細谷(東北) 4回戦 伴(仙台二)〇-×山崎(富谷) 5回戦 伴(仙台二)〇-×千葉(築館) 準々決勝 伴(仙台二)×-〇南谷(小牛田) ベスト8・東北大会出場 2回戦 手嶋(仙台二)〇-×伊藤(泉松陵) 3回戦 手嶋(仙台二)〇-×佐藤(築館) 4回戦 手嶋(仙台二)×-〇細川(東北学院) 女子個人戦 1回戦 松田(仙台二)〇-×伊藤(古川工) 2回戦 松田(仙台二)〇-×中嶋(富谷) 3回戦 松田(仙台二)〇-×高橋(泉) 4回戦 松田(仙台二)×-〇佐藤(柴田) ベスト16

大会名 部 名	平成19年度		平成20年度	
	新 人 大 会		定期戦	総合体育大会
剣 道 部				女子個人戦 1回戦 下瀬川(仙台二) ○-×小澤(利府) 2回戦 下瀬川(仙台二) ○-×吉岡(古川学園) 3回戦 下瀬川(仙台二) ○-×岩澤(涌谷) 4回戦 下瀬川(仙台二) ○-×齋藤(岩出山) 準々決勝 下瀬川(仙台二) ×-○早坂(柴田) ベスト8・東北大会出場 東北大会 伴 2回戦敗退 下瀬川 1回戦敗退
フェンシング部	団体 1回戦 仙台二3-5 仙台一		団体 1回戦 仙台二2-5 仙台南 個人 エベ 孫 祖博 準優勝 東北大会 8位入賞	東北大会出場
山 岳 部	3位		4位	
ス キ ー 部	女子スラローム 2位 丹野 光里		県大会 女子ジャイアントスラローム 2位 丹野 光里 女子スラローム 5位 丹野 光里 全国大会 女子ジャイアントスラローム 120位 丹野 光里 東北大会 女子ジャイアントスラローム 51位 丹野 光里 女子スラローム 35位 丹野 光里	
ヨ ッ ト 部	1558艇 5位 渡辺 祐記・佐々木 駿組 1125艇 8位 相澤 悠介・千葉 圭彦組		県大会 1558艇 渡辺祐記・佐々木駿組 7位 1125艇 相澤悠介・千葉圭彦・森田貴信組 8位 東北大会 1558艇 渡辺祐記・佐々木駿組 17位 1125艇 相澤悠介・千葉圭彦・森田貴信組 20位 国体予選 シーホッパーSRスモールリーグ 12969艇 渡辺 祐記 第8位	

部 活 動 の 成 果

学 芸 部 成 績 (平成20年11月まで)

部 名	成 績	部 名	成 績
写 真 部	第32回全国高等学校総合文化祭(群馬大会)参加 水鏡の森 3年8組 八木沼瑞紀 胎動 3年8組 鈴木 大助 「夕日を釣る男」 3年2組 加藤慶一郎 第7回宮城県高等学校夏季写真コンテスト 最優秀「勝利の瞬間」 2年7組 長田 麗 佳作「ハブニング」 2年7組 長田 麗 佳作「談笑」 2年3組 山本ひとみ	吹奏楽部	第11回宮城県高等学校総合文化祭 吹奏楽専門部代表として出演 第11回アンサンブルコンテスト仙台青葉支部予選 打楽器四重奏 金賞 フルート・オーボエ五重奏 銀賞 クラリネット四重奏 銀賞 サクソフォン三重奏 銀賞 金管八重奏 銀賞 第30回東北吹奏楽の日演奏会(仙台高校と合同演奏) JBA東北支部主催打楽器ソロコンテスト南東北大会 アルトサクソフォン 辻 明哲(3-2) 銀賞 フルート 柳原 志保(2-1) 銅賞 第21回定期演奏会開催(6/7 仙台市民会館) 全日本吹奏楽コンクール第51回宮城県大会 仙台青葉・泉地区予選 大編成の部 銀賞(代表) 同 県大会 銅賞
物 理 部	第61回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「実験結果に基づくシャルルの法則の確認と絶対零度の予測」 大槻 兎生、中村 聡志、植松 健、青木 大地 熊谷 健太、西崎 遼河、船越 翔平	合唱部	北陵祭にて発表
化 学 部	第40回国際化学オリンピックハンガリー大会 銅賞 鈴木 裕太 全国高校化学クラブ2008 大賞 鈴木 裕太(全国1位) 銀賞 山崎 高寛(全国26位) 第41回国際化学オリンピックイギリス大会 日本代表候補 小田 望	囲碁部	第32回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会宮城県大会(6/27~29) 団体 優勝(星 哲彦、加藤 淳史、大山 佳太) 第32回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会全国大会(7/28~29) 団体 4位(星 哲彦、加藤 淳史、大山 佳太) 第32回全国高校総合文化祭囲碁部門(8/9~10) 個人戦 加藤 淳史 31位 第9回宮城県高校囲碁九路盤大会(10/10) 1位 加藤 淳史 3位 後藤 馨 4位 浅野 壮宏 5位 星 哲彦 8位 阿部 和久 第22回東北地区高等学校囲碁選手権大会出場(11/7~8) 団体戦 宮城県代表 星 哲彦、加藤 淳史
生 物 部	第61回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「アクアリウムにおけるフィルターの材質の違いによる水の浄化作用の比較」 2年7組 永谷 春香 1年5組 相澤 奎 1年5組 岩瀧 翼 1年5組 後藤 大器 1年5組 鈴木 祥恵 1年5組 鈴木 志郎 1年5組 林 憲成 1年5組 堀 純平	将棋部	第43回全国高等学校将棋選手権宮城県予選大会 準優勝 成田 憲俊(3年)
地 学 部	第61回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「赤石の地質を学ぶ」 鹿澤 優祐、堀田 尚宏、伊藤 広大 優秀賞「地層のろ過作用による水質改善の原理」 齋藤 浩唯、阿部 峻太、武山 詳 優秀賞「やませの発生メカニズムと東北地方の気候に与える多岐にわたる影響について」 佐々木洋祐	ギター部	TAKE UP SEED 主催ナンバーズスクール定期戦出場(4.29) 関本 崇文・佐藤嘉久昌・豊田 泰淳・北谷 大貴 渡辺 数基・今野 雄大・齋藤 真帆・今野 翔太 佐々木航平・和野 圭祐 第15回高校対抗バンド合戦県大会出場(7.19) 齋藤 真帆・今野 愛・力山絵理華 渡辺 数基 合同企画 宮一高・仙台二高 合同ライブ開催(3.27)(7.21)
英 語 部	宮城スケット甲子園2008決勝大会出場 第55回宮城県高等学校英作文コンクール出場		
書 道 部	全国総合文化祭 3年1組 日野 慎也(全国学生書道展・毎日新聞社賞)		

